

1 そもそも副鼻腔って何？

「ふだん鼻がつまったり鼻水が出たりするのは、鼻腔、つまり鼻の穴の中。下鼻甲介^{カビコウカ}という粘膜のヒダで起こる現象です」。副鼻腔というのは、その鼻腔から細い通路でつながっている、骨の中に開いた空洞のこと。「骨の成長につれて広がるんですよ。顔の骨ってポリウムがあるから、仮にぎっしりつまったらまだと、重くて首で支えきれない。それを防ぐ目的で、頭を軽量化するためにできた空洞ではないかと考えられます」



鼻の周囲に広がるのが副鼻腔。左右の上顎洞のほか、おでこに開いた前頭洞などがあり、空気が入り出している。

それって実は副鼻腔炎かも？

季節でもないのに花粉症？

なかなか治らない鼻の不調は、副鼻腔の炎症が原因かも。

「なんだか鼻がすっきりしない。頭も重くてうっとうしい。花粉症の季節が終わってもそんな症状が残っている人、あるいは鼻風邪が長引いている人は気をつけて。おそらくトラブルが起きている場所は、鼻のずつと奥、自分では見ることのできない領域、副鼻腔。」

「なじみのない名前だと思いますが、副鼻腔炎自体は珍しいものではありません。ただ、こじらせて慢性化するとやっかい。それに、副鼻腔のある場所は頭や目にも近いので、いったん問題が起これると、思わぬ重い症状を引き起こすこともあるんですよ」と、笠井耳鼻咽喉科クリニックの笠井創先生。

自分の体の一部なのに、知らないことばかりの鼻の中。何に、どう気をつければいいのか詳しく知りたい！

2 副鼻腔炎ってどんなもの？



鼻水や鼻づまりの不快感が長引くのは、副鼻腔炎を起こしているからかもしれません。

「ふだんから潤いをもたせるために、副鼻腔にもある程度の水分はあるんです。でも風邪などが原因で粘膜が腫れて厚くなると、分泌物が増え、その分泌物から栄養分を摂って細菌が増殖して、膿、いわゆる鼻水が溜まってしまふ。これが副鼻腔炎」。鼻風邪も花粉症などアレルギー性の鼻炎も、初期に出る鼻水はサラサラ。でもほとんどの場合、少したつと粘度が高くなる。「ねばつこくなつた時点で、副鼻腔の炎症もあると考えていい。とくに、黄色っぽい鼻水は、確実に副鼻腔からのものです。つまり意識していないだけで、風邪をひけばたいは、一時的に急性の副鼻腔炎になっているというわけ。治るには2〜3週間、長いときには2〜3か月かかります」